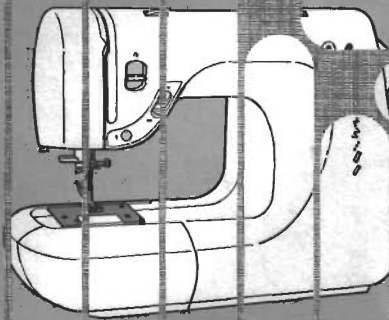
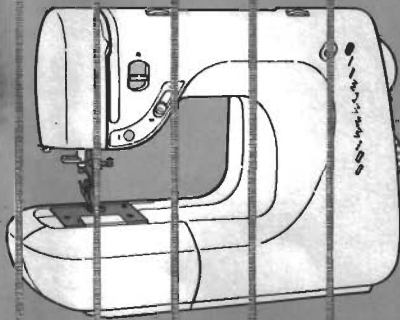


JUKI

電子ミシン/Auto Tension

HZL-858

取扱説明書



▲注意


安全にご使用していただくため、ご使用前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。また、いつでもご覧になれますように、この取扱説明書を保管してください。

お買い上げいただきましてまことにありがとうございます。

このミシンは直線ぬいを始めとしてホームソーイングに適した数々の模様ぬいが内蔵されています。正しくミシンをご使用していただくためにどうぞこの「取扱説明書」をよくお読みいただきホームソーイングのパートナーとして末長くご愛用してください。

安全にご使用していただくために

このミシンを安全にご使用していただくために、下記のことからは必ずお守りください。
このミシンは日本国内向け、家庭用です。FOR USE IN JAPAN ONLY

 この表示は禁止のマークです。

警告

このマークの表示は感電、火災の原因となりますから、特にご注意ください。

1. 一般家庭用交流電源100Vで
ご使用ください。

2. 下記のようなときは
電源を切り、
室内コンセントから
電源プラグを抜いてください。

- ・ミシンのそばを離れるとき。
- ・ミシンをご使用になったあと。
- ・ミシンのご使用中に停電したとき。



注意

このマークの表示は感電、火災、けがの原因となりますから、特にご注意ください。

1. コントローラーの上
に物をのせないで
ください。



2. お客様ご自身の
分解、改造はしな
いでください。



3. ミシンを操作するときは
はかま部などカバー類
を閉じてください。



4. ミシンの縫製中は針から
目を離さないようにし、
針、はずみ車(フリー)、
天びんなど、すべての
動いている部分に手
を近づけないでください。



5. 針折れの原因になるよ
うな曲がった針はご使
用にならないでくださ
い。



6. 針折れの原因になりま
すので、縫製中に布を
無理に引張ったり、押
したりしないでくださ
い。



7. お子様がミシンをご使
用になるときや、お子
様の近くでご使用され
るときは、特に安全に
ご注意ください。



8. 下記のことを行う
ときは、電源を
切ってください。



- ・針、針板、押え、アタッチメントなどを交換するとき。
- ・下糸、上糸をセットするとき。
- ・ランプを交換するとき。(ランプが冷えてから行ってください。)
- ・取扱説明書に記載のあるミシンのお手入れを行うとき。



9. 落下しやすい場所での
ミシンのご使用、保管
はしないでください。

10. ミシンやコントローラー
に下記の異常がある
ときは速やかに使用
停止し、最寄りの販売
店にて点検、修理、調
整をお受けください。

- ・正常に作動しないとき。
- ・落下などにより破損したとき。
- ・水に濡れたとき。
- ・電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。
- ・異常な臭い、音がするとき。

その他のご注意

長時間のゆっくりぬいを続けると異常発生を防ぐため、ミシンが止るようになっています。



約20分で安全装置が復帰して正常にご使用できます。

直射日光が当たる場所、湿気が多い場所には置かないでください。



シンナーなどの溶剤で拭かないでください。



柔らかい布に中性洗剤を少量つけて、良く拭き取ってください。

もくじ

付属品.....	2	直線ぬい.....	9
各部のなまえ.....	3	返しぬい(ほつれ止め)	
フリーアームのセット		ジグザグぬい.....	10
主なはたらき.....	4	ボタン穴かがりぬい.....	10
下糸の準備.....	5	芯入りボタン穴かがりぬい.....	11
下糸巻き糸のかけ方		ファスナーつけ.....	11
ボビンを内かまに入れるには		裁ち目かがりぬい.....	12
上糸のかけ方.....	6	伸縮強化ぬい.....	12
針自動糸通し		まつりぬい.....	12
下糸の引きあげ方		突き合わせぬい.....	13
のとりかえ方.....	7	ランプの交換.....	13
針について.....	7	ミシンの手入れ(掃除).....	13
針の交換、針の選び方、調べ方		コントローラーについて.....	14
押えと各模様の関係.....	7	故障かな...というときは.....	裏表紙
糸調子の合わせ方.....	8	アフターサービスと保証.....	裏表紙
各模様のぬい目の長さ調節範囲.....	8		
布地・ミシン糸・ミシン針の関係と合わせ方.....	8		

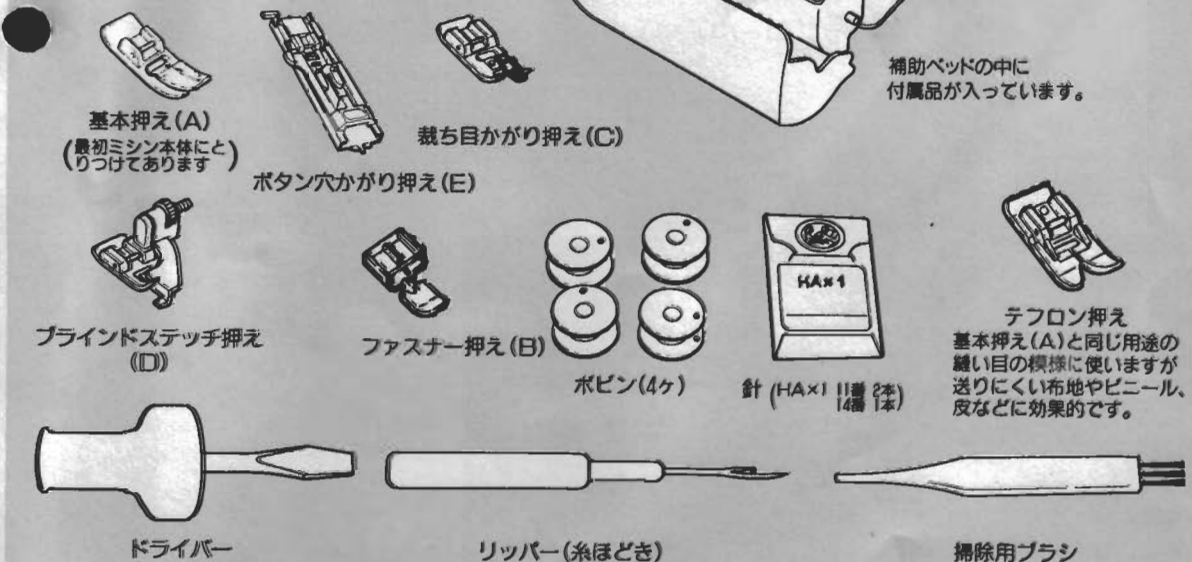
■仕様表

項目	仕様
本体寸法	幅37.8×高さ17.7×奥行き28.1 (cm)
ケースセット時寸法	幅41.5×高さ20.5×奥行き29.0 (cm)
重量	6.9kg(ケースセット時 7.6kg)
定格電圧/消費電力	100V/70W 50/60Hz
ランプ消費電力	100V/15W

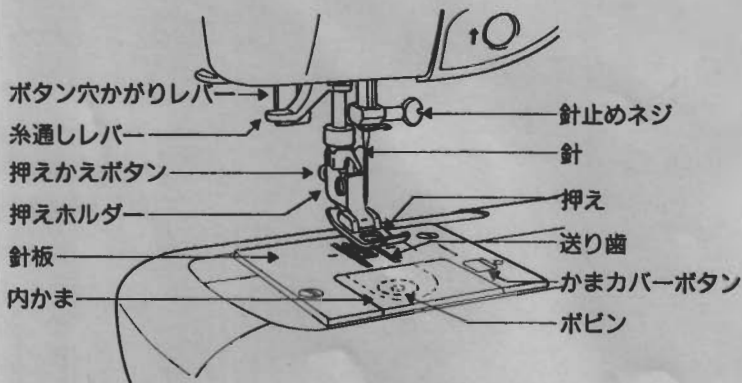
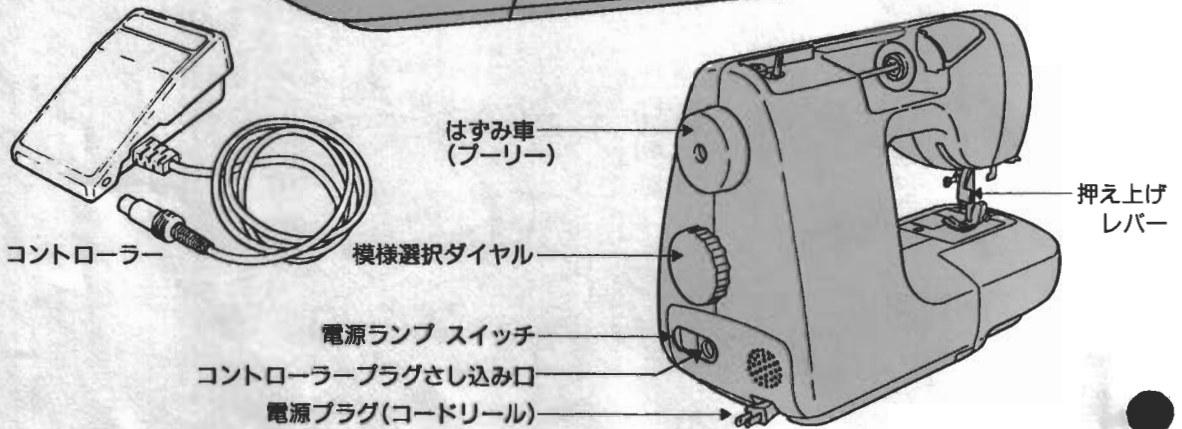
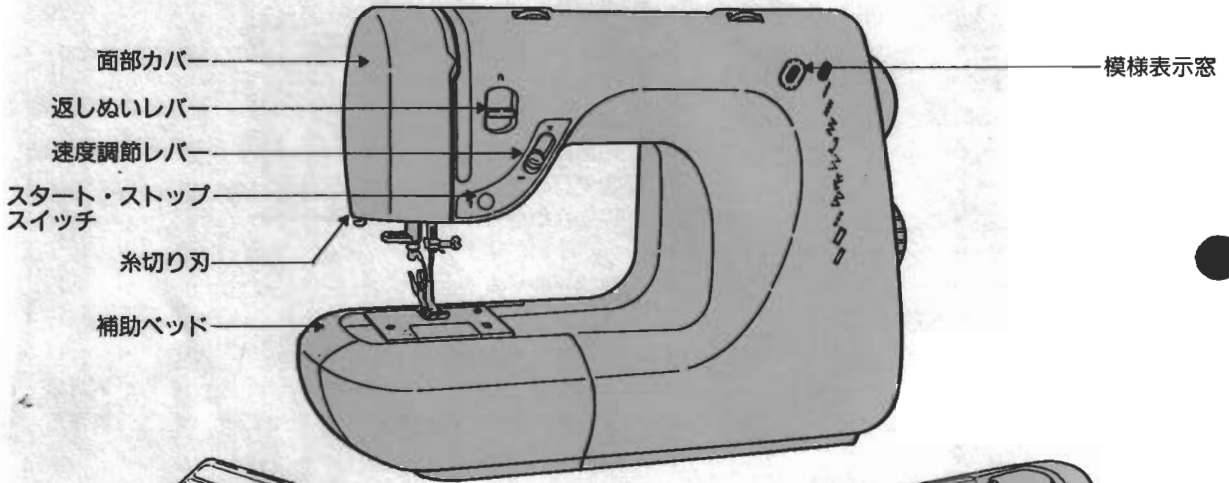
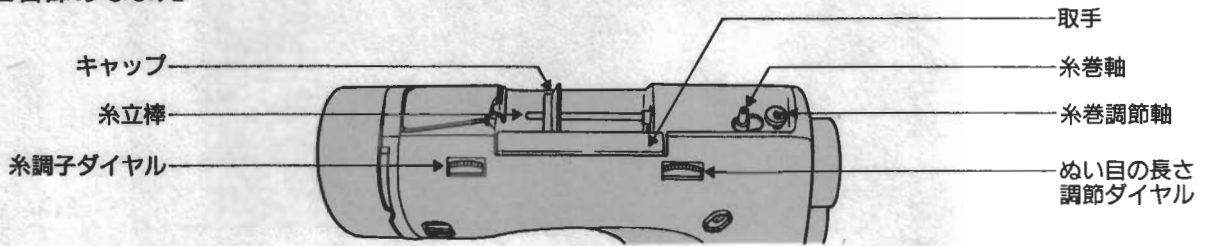


補助ベッドの中に
付属品が入っています。

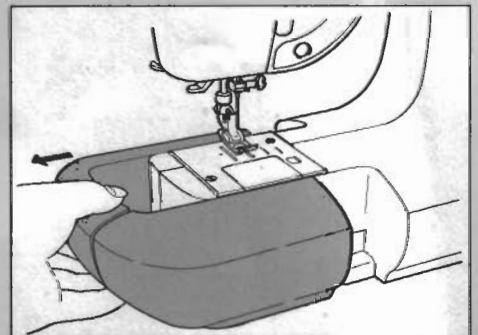
■付属品



■各部のなまえ



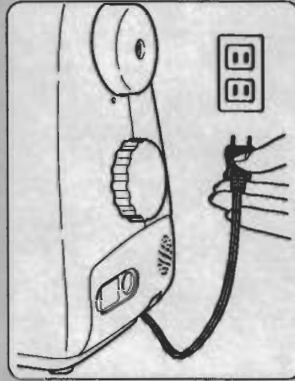
フリーアーム



補助ベッドを左へ引きますとフリーアームになります。

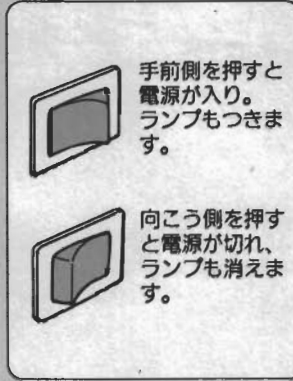
■主な はたらき

電源・コードリール



コードを引き出します。
コードを少し引いてゆるめます
と巻きこみます。

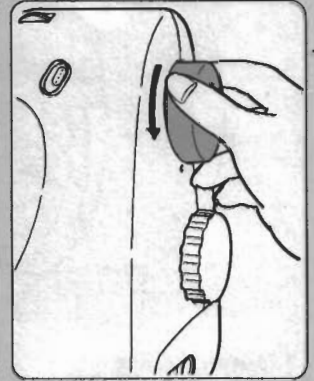
電源ランプ スイッチ



手前側を押すと
電源が入り。
ランプもつきます。

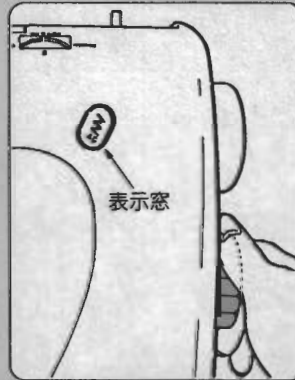
向こう側を押す
と電源が切れ、
ランプも消えます。

はずみ車



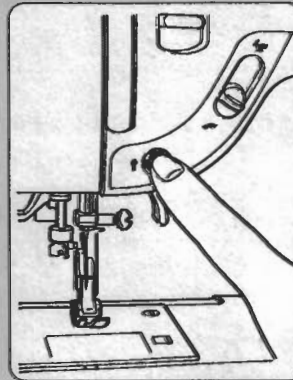
はずみ車を回すと針が上下しま
す。
はずみ車は、必ず手前に回して
ください。

模様選択ダイヤルと表示窓



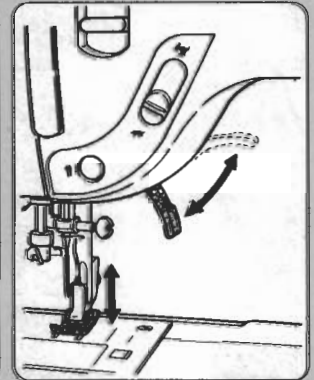
模様選択ダイヤルを回し、
表示窓に出した模様が進みます。

スタート・ストップスイッチ



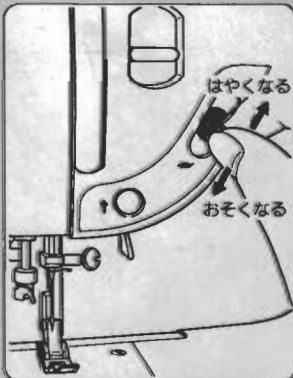
ミシンをスタートさせます。
再度押すとストップします。

押え上げレバー



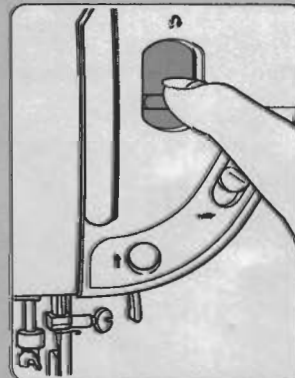
上にあげると押えがあがります。
下へさげると押えはさがります。

ぬい速度調節レバー



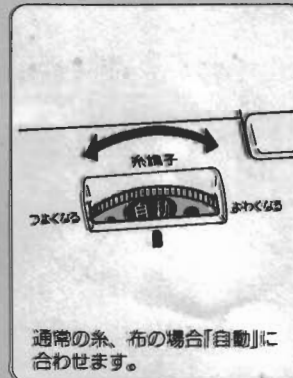
ぬい速度を調節します。

返しぬいレバー



ぬい始め、ぬい終わりにレバーを
押すと返しぬいができます。

糸調子ダイヤル



通常の糸、布の場合「自動」に
合わせます。

左に回すと上糸調子が強くなり
右に回すと弱くなります。

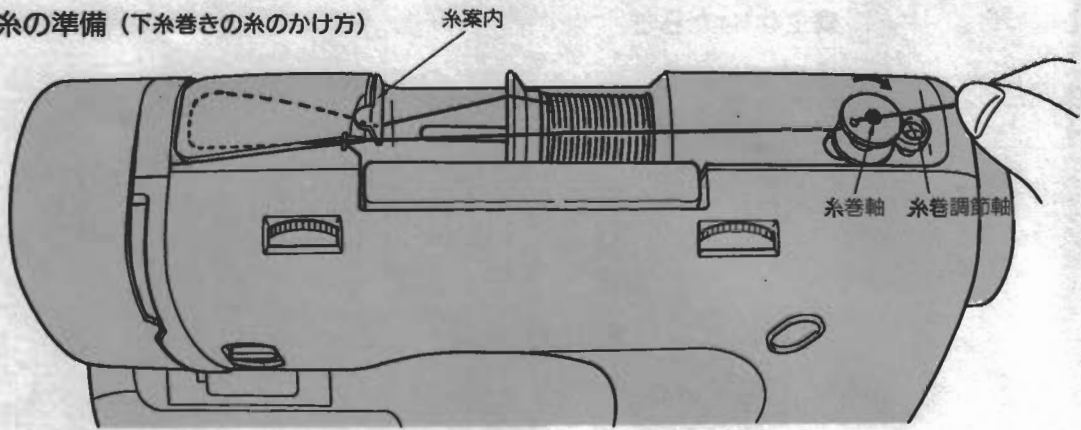
ぬい目の長さ調節ダイヤル



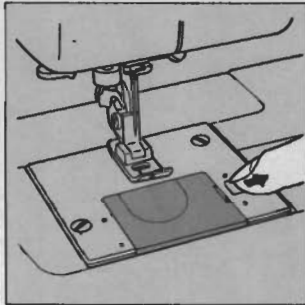
この模様が自動的に最適な
ぬい目が設定されていま
すので調節することはで
きません。

数字が小さくなるとこまかく、
大きくなると荒くなります。

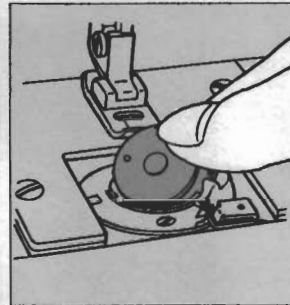
■下糸の準備 (下糸巻きの糸のかけ方)



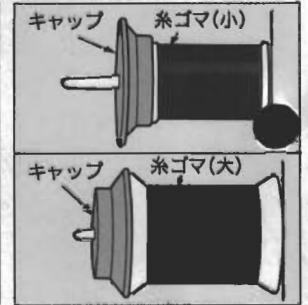
1 かまカバーを開けます



2 ボビンをとり出します



3 糸ゴマをセットします

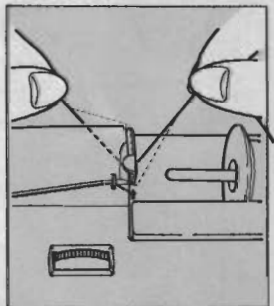


糸ゴマの外周に応じてキャップの裏表をかえてとりつけます。



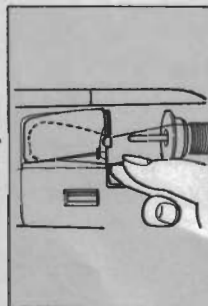
注意 ボビンを出し入れするときは必ず電源スイッチを切ってください。

4 糸案内に入れます

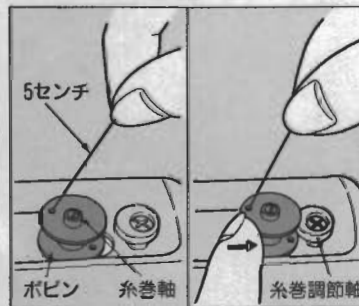


手前から向こう側に入れます。

5 ミソにそって
かけます

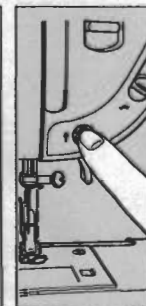


6 ボビンを糸巻軸にセットします



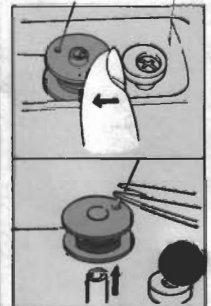
ボビンを糸巻調節軸へ押しつけます。

スタート
させます



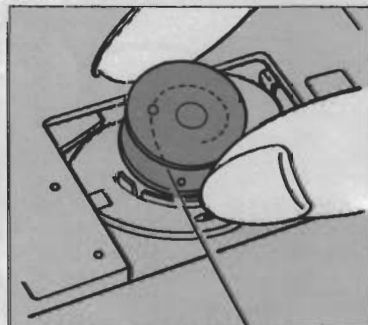
巻き終わったら再度スタート・ストップスイッチを押します。

8 ボビンを左側
へもどします



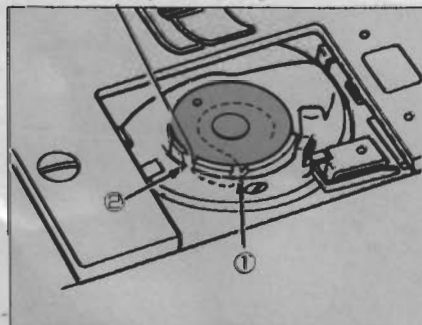
余分な糸を切りボビンを取り出します。

9 内かまに入れます



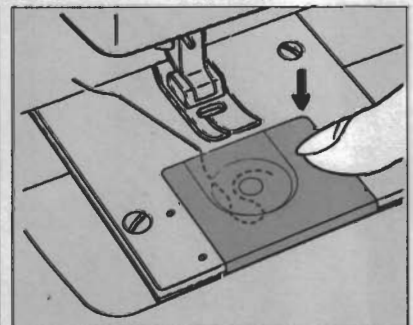
ボビンにの糸の巻き方向をまちがわないように /

10 内かまに糸をかけます



①に糸をかけ ②のミソの上へのせ後ろへもって行きます。

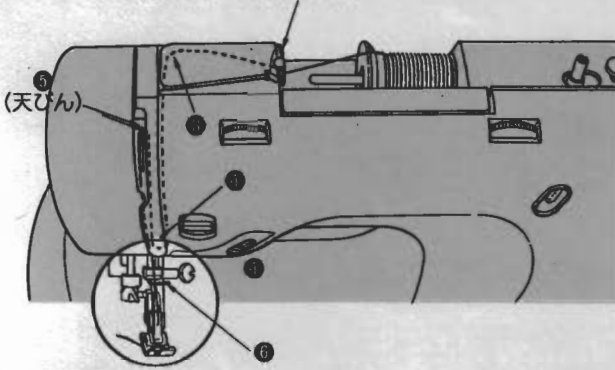
11 かまカバーを閉じます



■上糸のかけ方 ②(糸案内)

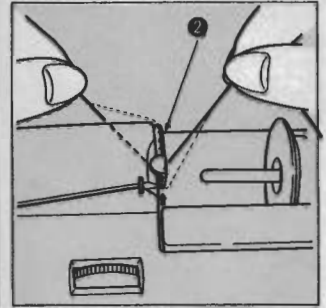
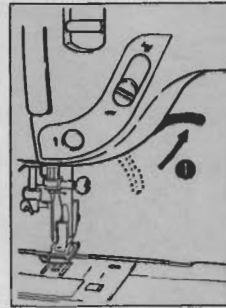


注意 糸かけや糸を通すときは必ず電源スイッチを切ってください。

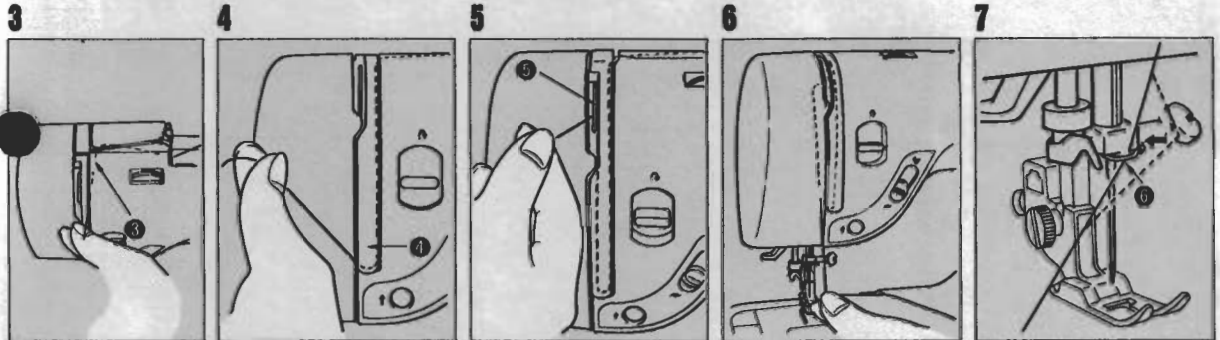


最初に押え上げ

- 1 レバーをあげます 2 糸案内にかけます



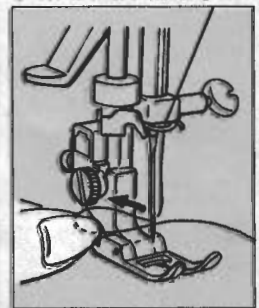
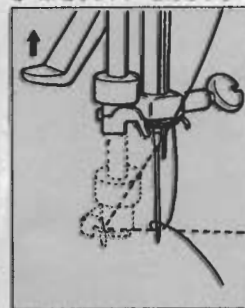
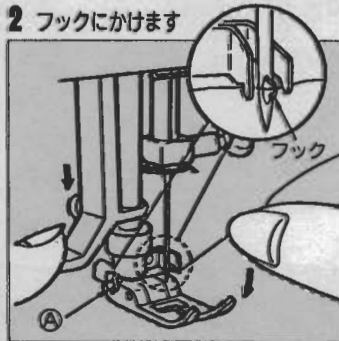
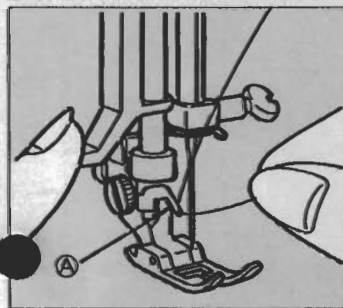
押えをあげると糸調子 手前から向こう側へ入れます。皿が開きます。



- ③から下へおろします。 ④から上にもって行きます。 ⑤天びんにかけます。 ⑥は右側からかけます。

針自動糸通し

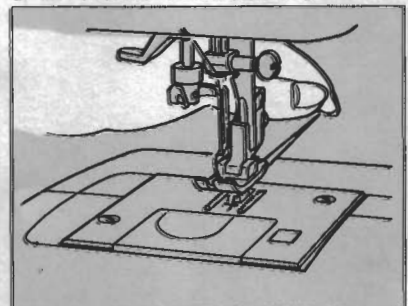
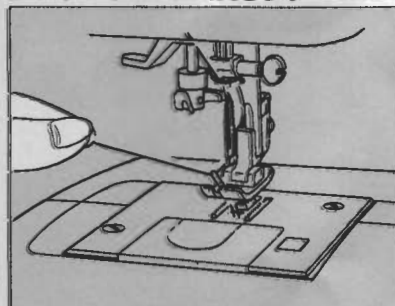
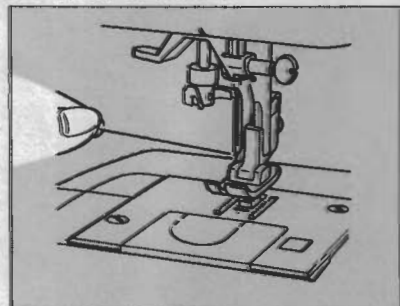
- 1 押えをさげ糸通しレバーを上げます 2 フックにかけます 3 糸通しレバーをあげます 4 糸をひき出します



針が一番上にあげ糸通しレバーを途中(重くなる直前)まで上げて④に糸をかけます。 さらに糸通しレバーを上げてフックに糸をかけます。 指をはなすとフックに糸をひっかけて針穴に通し、通した糸を針穴から10センチくらい引き出します。

下糸の引きあげ方

- 1 上糸を軽くもちます 2 はすみ車を手前に回します 3 上・下糸を10センチ出します



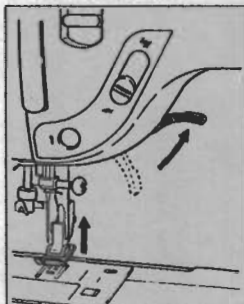
針が上下して下糸を引き出します。 上・下糸を押えの下にして後ろへそろえて出します。

▲注意

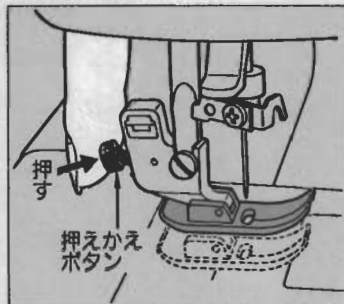
押えや針を交換するときは必ず電源スイッチを切ってください。

■押えのとりかえ方

1 押えを上げます

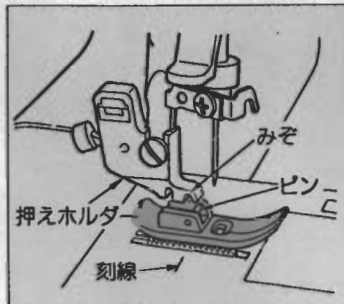


2 押えをはずします

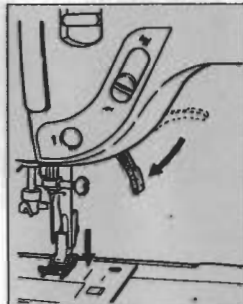


押えかえボタンを矢印の方向に押し
ます。

3 押えのピンと刻線を合わせます



4 押えを下げます



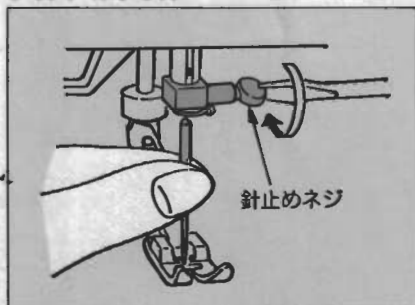
押え上げレバーを下げる
と押えはセットされます。

■針について

▲注意

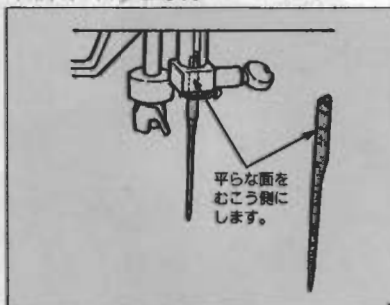
針の交換のときは電源スイッチを切ってください。

1 針の はずし方

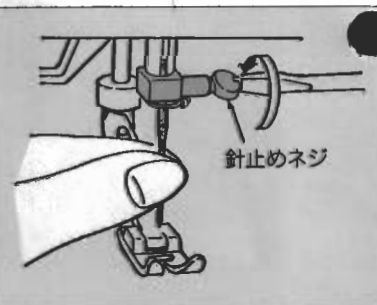


針を最上部にあげ針止めネジをゆるめます。

2 針の とりつけ方



針の平らな面をむこう側に
します。



ドライバーで針止めネジを
かたくしめます。

●針の選び方

針をお求めの際は
家庭用ミシン針のHA×1 または
HA×ISP(ニット針)を指定します。



太さの番号表示
数字が大きくなると
針が太くなります。

●針の調べ方



すき間が針先まで平均に見え
るのが良い針です。
針先が曲ったり、つぶれてい
るものは使わないようにしま
す。

■押えと各模様の関係

▲注意

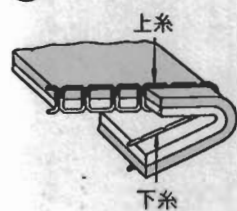
押えをまちがえますと針がぶつかり折れたり曲ったりしますのでご注意ください。

押 え	基本押え 又は テフロン押え		ファスナー押え	裁ち目かがり 押え	フラインド ステッチ押え	ボタン穴かがり押え			
模 様	— — —	— — — (小) (中) (大)	— — —	— — — (大)	— — —	— — —			
主 な 用 途	直線ぬい	伸縮強化ぬい	ジグザグぬい	裁ち目かがり	バッチワーク	ファスナーつけ	オーバードロック (オーバーロック)	フラインドステッチ (まつりぬい)	ボタン穴かがり



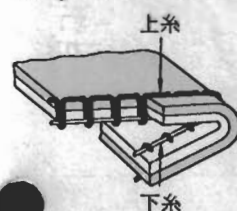
■糸調子の合わせ方

○ 正しい糸調子



上糸と下糸のからみが布の中心にくるのが正しい糸調子です。

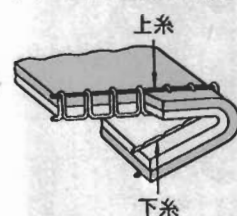
× 上糸の調子が弱いとき



糸調子ダイヤルを「自動」よりつよくします。



× 上糸の調子が強いとき



糸調子ダイヤルを「自動」よりよわくします。



■各模様のぬい目の長さ調節範囲

模 様	調節範囲	調節(0.5~4)例
直 線	0~4	~
ジグザグ	0~4	~~~~ ~ > ~~~~ ~ > ~~~~ ~ >
フラインド	0~4	~~~~ ~ > ~~~~ ~ >
三点ジグザグ	0~4	~~~~ ~ >
スーパー模様	自動	自動的に最適なぬい目の長さが設定されていますので調節できません。
ボタン穴かがり	0.2~1	□ ~ □ (0.2) ~ (1)

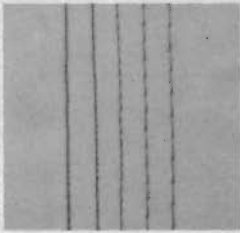
■布地・ミシン糸・ミシン針の関係とミシンの合わせ方

	布 地	ミ シ ン 糸	ミシン針	ぬい目の長さ		糸調子の目安
				直線ぬい	ジグザグぬい	
			 HA×1	ぬい目の長さ ながくなる 2 3 みじくなる		
● 地ぬい	ローン	綿ミシン糸 80~100番	(9番)	1~3	1~4	
	ジョーゼット	化繊・細ミシン糸 90・100番	11番			
	トリコット	化繊ミシン糸 60~100番	ニット針 11番			
	ウール・化繊布	絹ミシン糸 80番 化繊ミシン糸 60~100番	11番			
● 普通地ぬい	普通木綿・化繊布	綿糸 50~80番 化繊ミシン糸 50~60番	11~14番	1.5~3	0.5~4	
	薄手ジャージー	絹ミシン糸 50番 化繊ミシン糸 50~60番	ニット針 11番			
	一般ウール・化繊服地		11~14番			
● 厚地ぬい	デニム	綿糸 30~50番 化繊ミシン糸 30~50番	14~16番	2~4	0.5~4	
	ジャージー	絹ミシン糸 50番 化繊ミシン糸 50~60番	ニット針 11~14番			
	コート地	絹ミシン糸 50番	11~14番			

※ニット針(HA×1sp)は目とびを防ぎ伸縮性の布地に適します。

※フィラメント糸の場合は糸調子を「自動」より弱めにします。

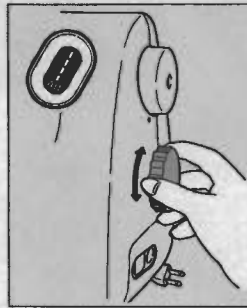
■直線ぬい



直線ぬいはぬいの基本です。布地に適した針と糸を選びましょう。

▲注意 押えを変えるときは必ず電源スイッチを切ってください。

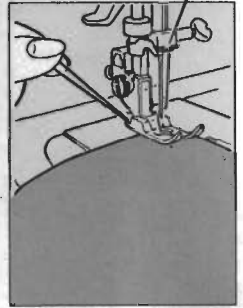
- 1 直線模様を選びます 2 基本押え(A)をとりつけます 3 布地を入れ押えをさげます



模様選択ダイヤルを回して合わせます。



基本押え(A)又はテフロン押え

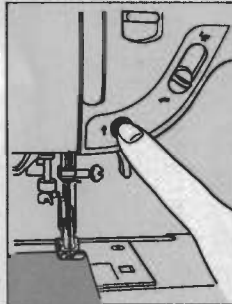


布地を押えの下におきぬい始める位置に針を落とします。上下糸をそろえて押えをさげます。

- 4 ぬい目の長さを決めます 5 スタートさせます 6 布地に軽く手をそえます 7 ぬい速度を調節します 8 ストップさせます



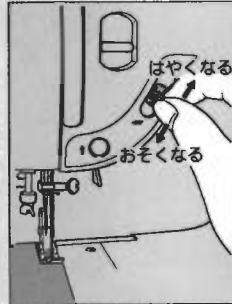
ぬい目の長さ調節ダイヤルを回します。



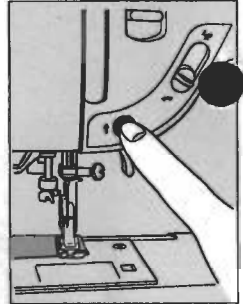
スタート・ストップスイッチを押します。



ぬっている間は布地をむりに引っばらないようにします。

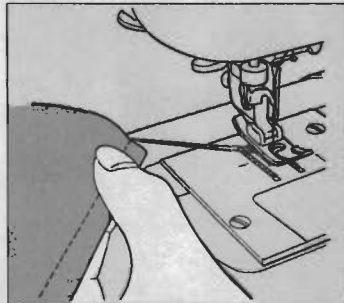


上にすると はやくなり 下にすると おそくなります。

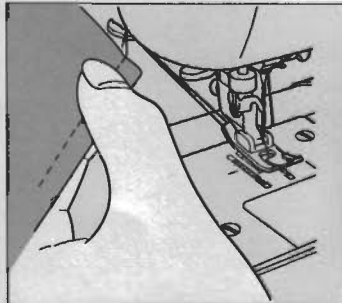


スタート・ストップスイッチを押します。

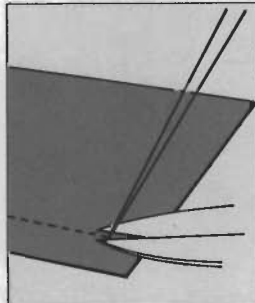
- 9 押えをあげて布地をとり出します 10 糸を切ります 11 布地の裏で糸を結びます



針が完全に止まってから、押え上げレバーをあげます。



上・下糸をそろえて10センチくらい引き出し面部の糸切り刃で糸を切ります。

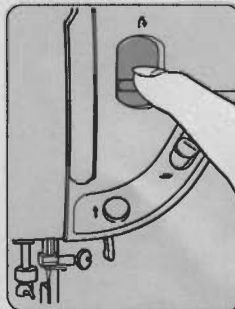
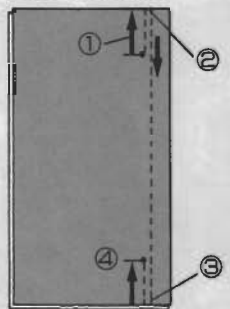


布地の裏側に上糸を引き出し上糸と下糸を結び 結び目のきわで糸を切ります。

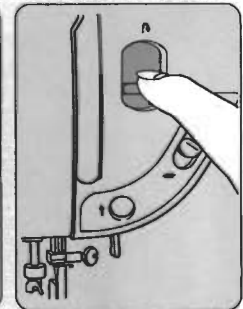
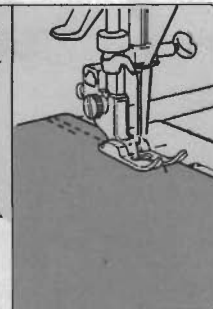
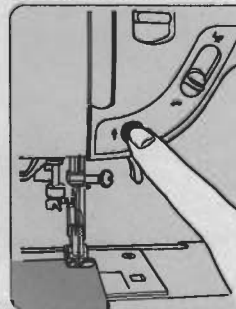
■返しぬい

(ほつれ止め)

- ①返しぬいレバーを押します ②スタートスイッチを押します ③④返しぬいをします



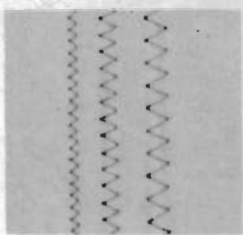
返しぬいレバーを押している間だけ返しぬいをします。



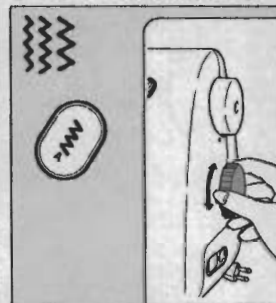
指をはなすとストップします。

▲注意 押えを変えるときは必ず電源スイッチを切ってください。

■ジグザグぬい



1 ジグザグ模様を選びます



3種類のうち お好みの振り幅模様に合わせて。

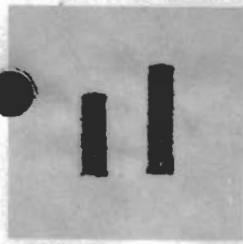
基本押え(A)をとりつけます



●ジグザグの振り幅とぬい目の長さの関係

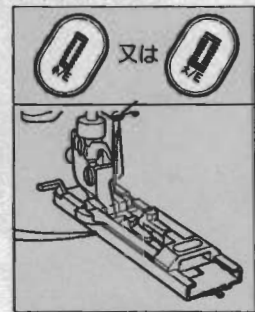
ジグザグ模様			
振り幅	小 1.5	中 3.3	大 5
ぬい目の長さの調節	0.5 4	0.5 4	0.5 4

■ボタン穴かがり



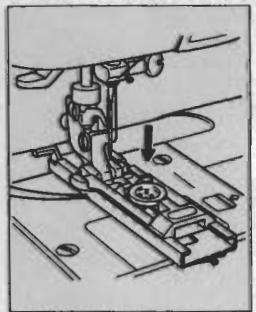
うすい布地でYシャツ、ブラウスほどの小さいボタンに適します。
厚い布地で上衣などの大きいボタンに適します。

1 ボタン穴かぎりの模様と押え(E)を選びとりつけます

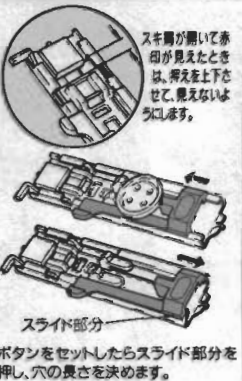


上・下糸を横に出します。

2 ボタンをセットします

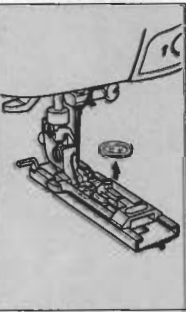


かがり穴の長さはボタンをセットするだけで自動的に決ります。(押えにボタンがのらないときは、ボタンの直径+ボタンの厚みが、かがり穴の長さです。)



ボタンをセットしたらスライド部分を押し、穴の長さを決めます。

3 ボタンをはずします

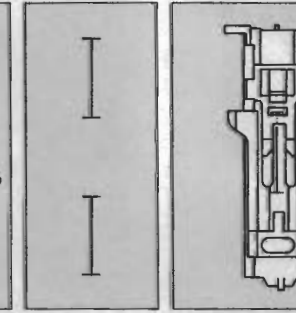


長さが決まりましたらボタンをはずします。

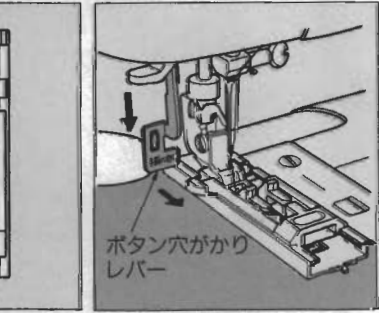
4 ぬい目の長さを合わせます



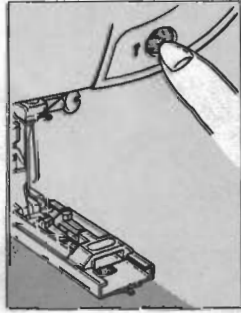
5 布地に印をつけます



6 布地に印を合わせ



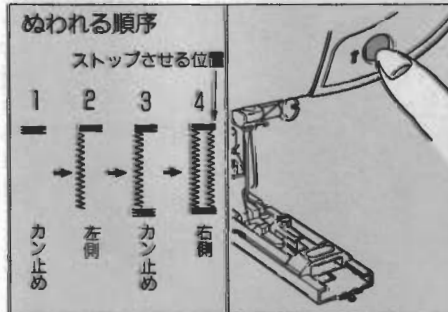
7 ボタン穴かがりレバーを下げて手前に引きます



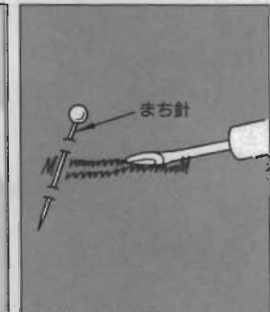
※ボタン穴かぎりの途中で糸が切れたり、失敗した場合は針から糸をぬいて最後の位置まで空ぬいをします。そして最初からぬい始めます。

おろ 左右のぬい目の粗さが合わないときの調節方法

9 最後までぬい終わりましたらストップさせます



10 リッパーで穴をあけます



切りすぎないように まち針を使うと失敗しません。

はすみ車の下の調整穴にドライバーをさし込み、ぬい目の状態に合わせて調整します。

右側が粗すぎる時

右側が細かすぎる時

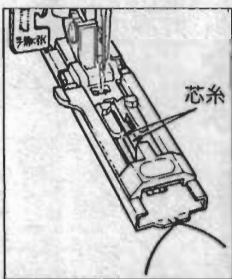
左側のぬい目を基準として 右側のぬい目を調整します。

■芯入りボタン穴かがり

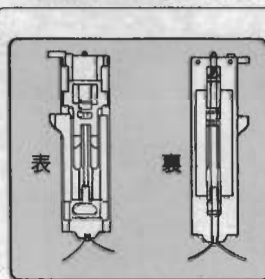
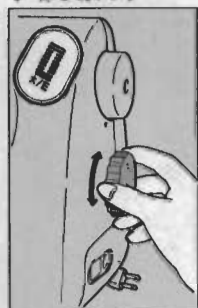
大きいボタン穴の模様を選びます



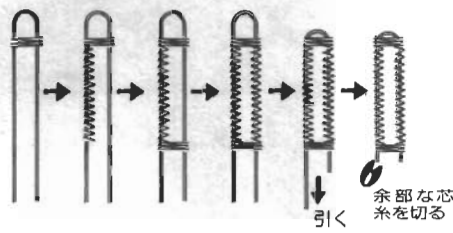
注意 押えを変えるときは必ず電源スイッチを切ってください。



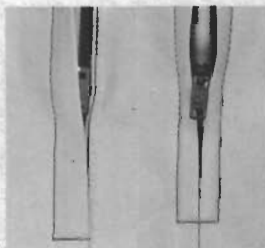
芯糸を入れてぬうとボタン穴の伸びを防ぎ、丈夫なボタン穴かがりができます。芯糸にはレース糸、または穴糸を使用します。



芯糸入りのボタン穴かがりをするときは、芯糸をボタン穴かがり押えの裏側の先端にひっかけて裏側の手前側を結びます。そのままボタン穴かがり押えを取りつけて穴かがりをすれば、芯糸入りのボタン穴かがりができます。



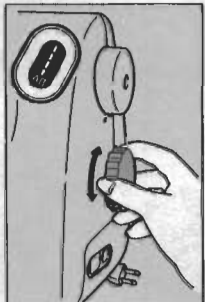
■ファスナーつけ



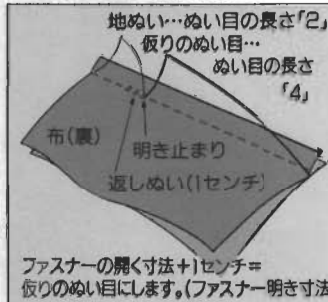
ファスナーつけは一般的に脇明きファスナーつけとつぎ合わせファスナーつけがあります。

脇明きファスナーつけ

直線模様を選びます



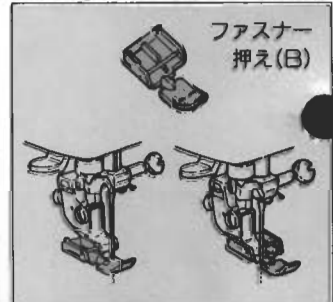
基本押え(A)を使い地ぬいと



ファスナーの開く寸法+1センチ=仮りのぬい目にします。(ファスナー明き寸法)

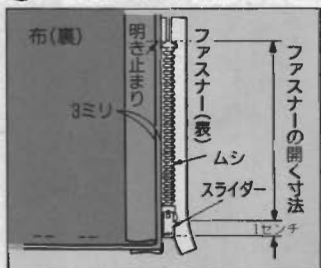
布地を中表に合わせて、地ぬいととりつけるファスナーの寸法を確かめて仮りぬいをします。

3 ファスナー押え(B)をセットします



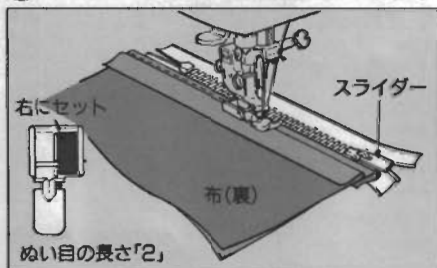
ファスナーの右側をぬうときは押えの左にセットします。左側をぬうときは押えの右にセットします。

① ぬい代をわります



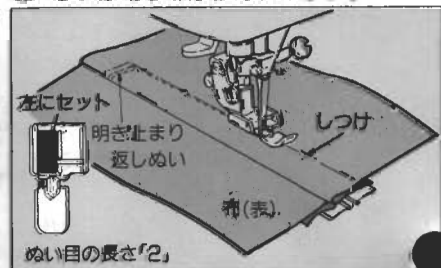
ぬい代をきちんとわり、後ろ布のぬい代を3ミリ出して、アイロンで折り目をつけ折り山をムシのきわにあてます。

② ファスナーの下方から上方にぬいつけます



押えの端をムシのきわに当ててぬいます。ファスナーのスライダのところは手前5センチ位でミシンを止め、スライダを押えの向こう側へさけて端までぬいつけます。

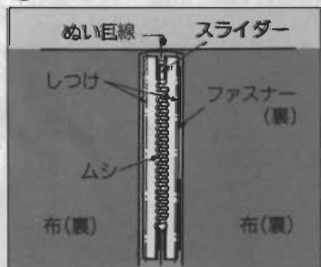
③ 上布をファスナーの上にかぶせしつけをしてからぬいつけます



スライダを引き上げて、上布をファスナーの上にかぶせしてしつけをします。明き止まりに返しぬいをして図のようにぬいます。スライダのところは仮のぬい目をほどいてスライダをさげ、残りをぬいます。

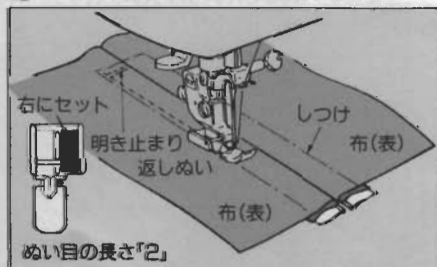
つぎ合わせファスナーつけ

① ファスナーをしつけます



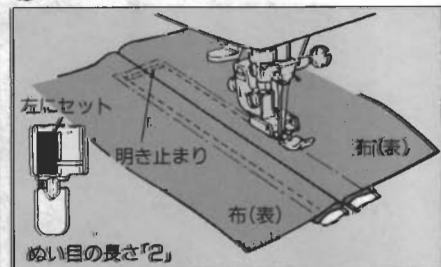
ぬい代をわり、ぬい目線にファスナーのムシの中心を合わせて、しつけをします。

② 左側を明き止まりからぬいます



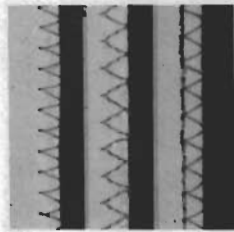
ぬい終わりましたら仮りのぬい目をほどきます。

③ 右側をぬいます

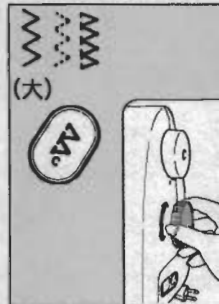


ぬい終わりましたら仮りのぬい目をほどきます。

■裁ち目かがり



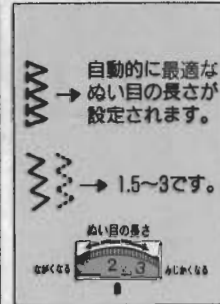
1 模様を選びます



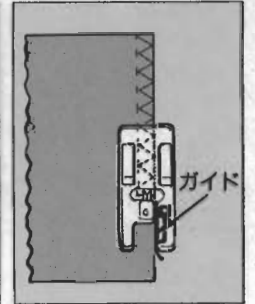
2 押えをかえます



3 ぬい目の長さを決めます



4 裁ち目かがり押え(C)を使う場合



▲注意

押えを交換するときは必ず電源スイッチを切ってください。

3種類のうち お好みの模様を合わせます。

※三点ジグザグぬい目は必ず基本押え(A)をお使いください。

布端をガイドにあててぬいいます。

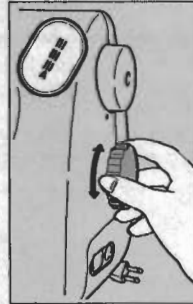
■伸縮強化ぬい (ストレッチステッチ)

伸縮性のある布地や、力かかってほつれやすい部分などに使うとぬい目がしっかりします。

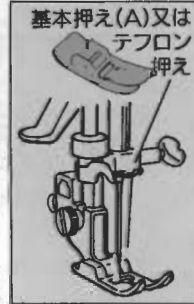
▲注意

押えを変えるときは必ず電源スイッチを切ってください。

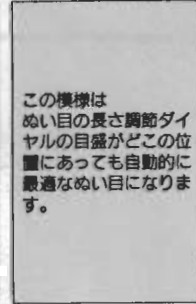
1 模様を選びます



2 押えをかえます



3 ぬい目の長さは自動的に決まります



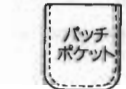
■使用例

●袖つけ

後ろ袖や、袖下に力がかかりほつれやすいところに使います。



●よく使用するポケットつけ

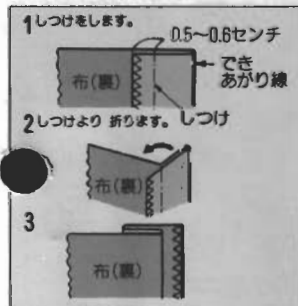


●袋ものにとってつけ

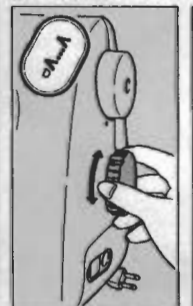


■まつりぬい (ブラインドステッチ)

裁ち目かがりをして
1 布地を折ります



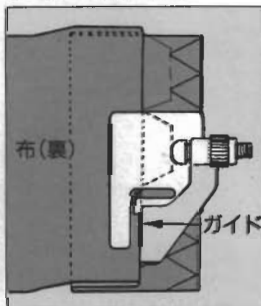
2 模様を選びます



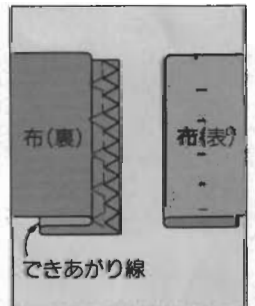
3 押えをかえます



4 押えのガイドにあててぬいします



5 布地を折りかえします



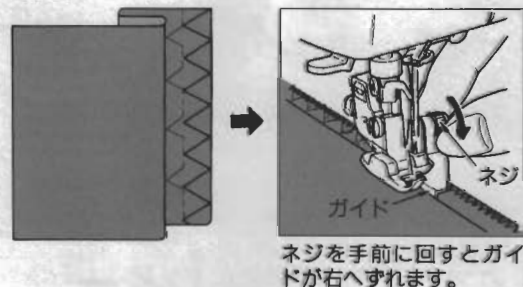
※ぬい目の長さは2~4にします。

押えのガイドを折り山にピッタリあててぬいします。

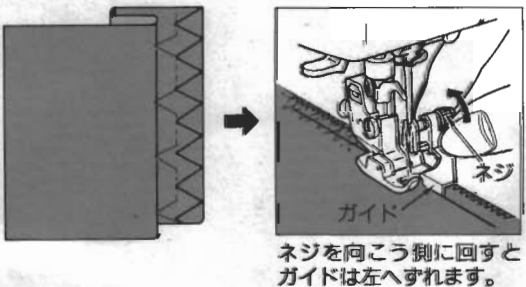
ぬい終わりましたら、布地を折り返してアイロンでととのえます。

●ブラインドステッチ押えのガイド調節方法

●折り山にぬい目がかからない場合



●折り山にぬい目がかりすぎた場合

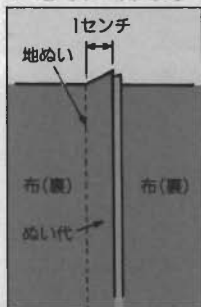


■突き合わせぬい (パッチワーク)

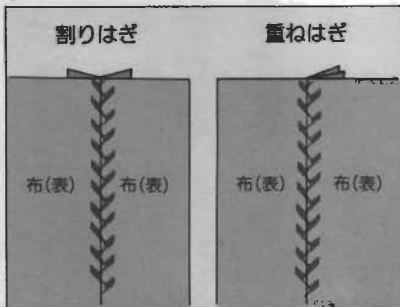
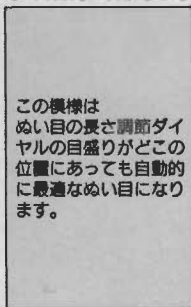
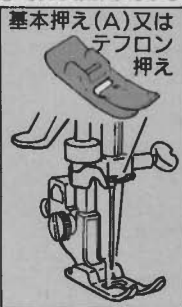
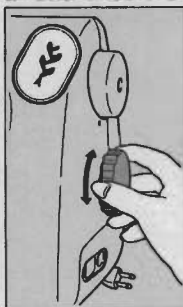


押えを変えるときは必ず電源スイッチを切ってください。

- 1 地ぬいをします
- 2 模様を選びます
- 3 押えを確かめます
- 4 自動的に決まります
- 5



2枚の布地に地ぬいをします。

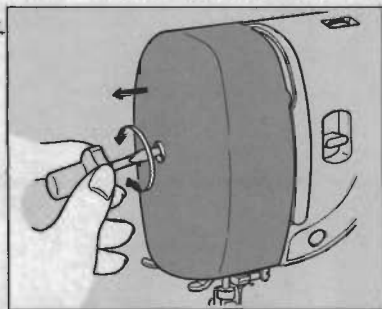


両方の布地に模様がまたがるようにぬいます。

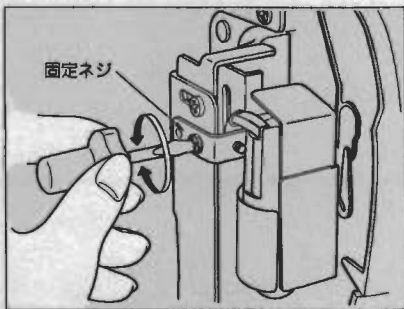
■ランプの交換 (面部カバーのとりはずし方)



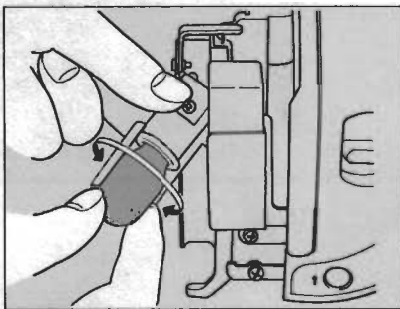
ランプの交換や掃除するときには必ず室内コンセントから電源プラグを抜き、電源を切ってください。



面部カバーの前面の止めネジをまわし、面部カバーをはずします。



ランプ固定ネジをはずします。



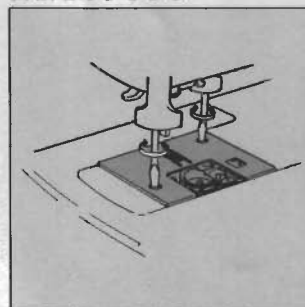
- ランプの消費電力は15Wです。
- ランプのお買い求めは、このミシンをお買い上げたきました販売店でお願いします。

■ミシンの手入れ

糸くずやほこりが たまりますと 故障の原因となります。常にきれいにしておきましょう。

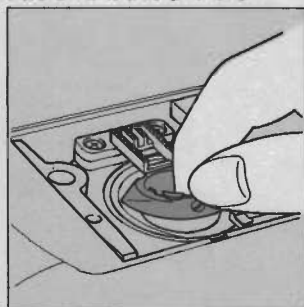
●掃除

針板をはずします

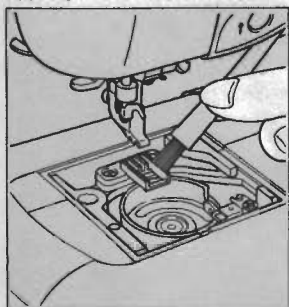


針や押えをはずしてから針板をはずします。

内かまをとりはずします



掃除用ブラシを使います



送り歯とかまの中と周辺をきれいにします。たくさんたまってしまったときは掃除機を使うときれいになります。

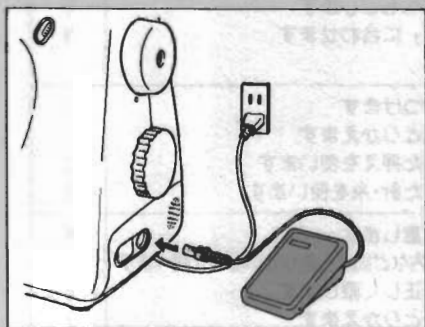
内かまのセットの仕方



内かまの凸部と合わせて落しこみます

■コントローラー

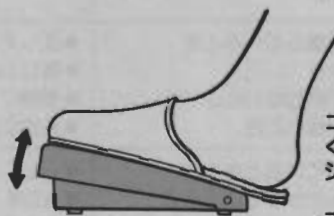
コントローラーを使いますと足の操作でスタートとストップからスピードコントロールができます。



コントローラーのプラグをミシンのコンセントに差しこみます。

▲注意

ミシンにセットしてあるコントローラーの上に物をのせないでください。



コントローラーを深く踏むと速くなり、浅く踏むと遅くなります。足をはなすとミシンは止まります。針は上で止まります。

スタートストップスイッチはストップのみ有効です。
速度調節レバーの位置により最高速度が変化します。
速度調節レバーを一番右にしておくと、ゆっくりから最高速度までコントロールできます。

■故障かな…というときは

下記のような場合は故障ではありません。サービスをお申しつける前にもう一度お確かめください。

現象	原因(理由)	処置方法	ページ
布が送らない	<ul style="list-style-type: none"> ●ミシンが空転しているとき ●送り(ぬい目の長さ)が「0」になっているとき 	<ul style="list-style-type: none"> ●糸巻軸を左へもどします ●送り「1~4」に合わせます 	5 8
針が折れる	<ul style="list-style-type: none"> ●針のとりつけ方が間違っているとき ●針が曲がっているとき ●押えと選んだ模様合わないとき ●針・糸・布地の関係が悪いとき 	<ul style="list-style-type: none"> ●正しくとりつけます ●新しい針にとりかえます ●模様に合った押えを使います ●布地に合った針・糸を使います 	7 7 7 8
上糸が切れる	<ul style="list-style-type: none"> ●糸のかけ方が間違っているとき ●糸が必要以外の所へからんでいるとき ●上糸の調子が強すぎるとき ●針が曲がっているとき 	<ul style="list-style-type: none"> ●正しくかけ直します ●糸立棒、糸案内などからまわっていないか調べます ●上糸調子を正しく直します ●新しい針にとりかえます 	6 — 8 7
下糸が切れる ぬい目かとぶ	<ul style="list-style-type: none"> ●針のつけ方が間違っているとき ●針が曲がっているとき ●糸のかけ方が間違っているとき 	<ul style="list-style-type: none"> ●正しくとりつけます ●新しい針にとりかえます ●正しくかけ直します 	7 7 6
回転が重く、音が高い	<ul style="list-style-type: none"> ●かまに糸くすがたまっているとき 	<ul style="list-style-type: none"> ●かまを掃除します 	13
ぬいじわが出る	<ul style="list-style-type: none"> ●糸調子が強すぎるとき ●布地と針と糸が合っていないとき 	<ul style="list-style-type: none"> ●糸調子を合わせます ●正しく合わせます 	8 8
スタート・ストップ スイッチを押しても ミシンが回らない	<ul style="list-style-type: none"> ●糸巻軸が糸巻状態になっている ●針をかまの中に落としたままになっている ●コントローラーがセットされている 	<ul style="list-style-type: none"> ●糸巻軸を左側へもどします ●針をとりのぞきます ●コントローラーでスタートさせるか、とりはずします 	5 — 13
糸通しができない	<ul style="list-style-type: none"> ●針が上にあがっていないとき ●針がとりつけるとき奥まで突き当たっていないとき ●糸通しレバーをさげたまま(糸通し中)誤ってミシンを回してしまったとき 	<ul style="list-style-type: none"> ●はずみ車を回して、針を最上点にあげます ●針を正しくとりつけます ●はずみ車を手でわずかが向かう側(ぬうときと反対)に回します 	6 7 —
模様ダイヤルが回らない場合		<ul style="list-style-type: none"> ●押え上げレバーを上げ、はずみ車を手前に2~3回回してください 	—

■アフターサービスと保証

- このミシンには保証書がついています。
 - 保証書は、販売店で所定事項を記入してお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保存してください。
 - 保証期間は、お買い上げの日から1年間です。ただしメイン基板は2年間です。
 - 保証期間中でも有料になることもありますので、ご了承ください。(保証書に詳細を記載してありますので、そちらをご覧ください。)
 - 保証期間経過後の修理につきましては、販売店にご相談ください。
- 当社は、このミシンの補修用性能部品を、お買い求めの日から最低8年間保有しています。

JUKI

JUKI 株式会社
〒182 東京都調布市国領町8-2-1
☎ 03-3480-7112